

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成18年11月2日(2006.11.2)

【公開番号】特開2005-154493(P2005-154493A)

【公開日】平成17年6月16日(2005.6.16)

【年通号数】公開・登録公報2005-023

【出願番号】特願2003-392018(P2003-392018)

【国際特許分類】

**C 0 9 D 11/00 (2006.01)**

【F I】

C 0 9 D 11/00

【手続補正書】

【提出日】平成18年9月20日(2006.9.20)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

融点が110～130のポリエチレンワックス(A)を、長鎖脂肪族1級アルコールにエチレンオキシドを付加重合した分子量が700～2400の界面活性剤(B)の存在下に水中に分散してなる水性インキ用添加剤であって、

前記界面活性剤(B)がHLB値6～14である水性インキ用添加剤添加剤。

【請求項2】

長鎖脂肪族1級アルコールにエチレンオキシドを付加重合したHLB値3～5の界面活性剤(C)を併用する請求項1記載の添加剤。

【請求項3】

ポリエチレンワックス(A)の60における針入度が5以下である請求項1または2記載の添加剤。

【請求項4】

ポリエチレンワックス(A)の分散粒子の平均粒子径が0.5～10μmである請求項1ないし3いずれか記載の添加剤。

【請求項5】

ポリエチレンワックス(A)の分子量が1000～3000でありかつ分散度が1.10以下である請求項1ないし4いずれか記載の添加剤。

【請求項6】

請求項1ないし5記載の水性インキ用添加剤を水性インキに添加してなる水性インキ。

【請求項7】

融点が110～130のポリエチレンワックス(A)を、

長鎖脂肪族1級アルコールにエチレンオキシドを付加重合した、分子量が700～2400の、HLB値6～14である界面活性剤(B)の存在下に水中に分散することを特徴とする水性インキ用添加剤の製造方法。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

## 【0005】

本発明は融点が110～130のポリエチレンワックス(A)を、長鎖脂肪族1級アルコールにエチレンオキシドを付加重合した分子量が700～2400の界面活性剤(B)の存在下に水中に分散してなる水性インキ用添加剤であつて、

## 【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

## 【0006】

前記界面活性剤(B)がHLB値6～14である前記水性インキ用添加剤に関する。

## 【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

## 【0011】

また、本発明は前記水性インキ用添加剤を水性インキに添加してなる水性インキに関する。

また、本発明は融点が110～130のポリエチレンワックス(A)を、  
長鎖脂肪族1級アルコールにエチレンオキシドを付加重合した、分子量が700～2400の、HLB値6～14である界面活性剤(B)の存在下に水中に分散することを特徴とする水性インキ用添加剤の製造方法に関する。

## 【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

## 【0013】

本発明の水性インキ用添加剤は、融点が110～130のポリエチレンワックス(A)を、長鎖脂肪族1級アルコールにエチレンオキシドを付加重合した、分子量が700～2400の、HLB値6～14である界面活性剤(B)の存在下に水中に分散してなる水性インキ用添加剤である。